

第6回 沖縄眼科臨床懇話会

新専門医制度単位 1.0単位 <認定番号61308>

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度『第6回沖縄眼科臨床懇話会』を以下の日時にて開催致します。
先生方のご参加を心よりお待ちしております。

日時 2024年10月27日(日) 10:00～12:00

形式 現地開催 > 沖縄県立博物館・美術館「博物館 講座室」
住所：沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL：098-941-8200

会費 1,000円 ※現地支払い
※参加費は会の運営費用として充当いたします。

Opening Remarks

沖縄県眼科医会

会長 知念 靖 先生

座長

琉球大学大学院医学研究科 医学専攻眼科学講座

教授 古泉 英貴 先生

特別講演① 10:00～11:00

『再生医療と医療イノベーション』

藤田医科大学医学臨床再生医学 教授

藤田医科大学羽田クリニック 院長

榛村 重人 先生

特別講演② 11:00～12:00

『黄斑疾患の治療アップデート』

富山大学 学術研究部医学系 眼科学講座 教授

林 篤志 先生

共催：沖縄眼科臨床懇話会

参天製薬株式会社

第6回 沖縄眼科臨床懇話会

新専門医制度単位 1.0単位 <認定番号61308>

『再生医療と医療イノベーション』

藤田医科大学医学臨床再生医学 教授 / 藤田医科大学羽田クリニック 院長

榛村 重人 先生

高橋政代先生が世界で初めてiPS由来網膜色素上皮細胞シートを患者に移植して以来、眼科領域は常に再生医療の先陣を切ってきた。保険収載されている再生医療等製品は令和6年6月現在で25品目あるが、そのうち3つが角膜疾患を対象とする培養上皮シートで、1つは水疱性角膜症に対する培養角膜内皮細胞である。今後はさらに、iPS由来網膜色素上皮細胞移植が先進医療として承認される見通しである。

我々の研究室では、iPS由来角膜内皮代替細胞の臨床研究及び、炎症性眼表面疾患に対するヒト脂肪由来間葉系幹細胞注入療法の臨床研究を実施中である。さらに医療全体を見渡せば、細胞治療という狭義の再生医療の他に、遺伝子治療、創薬開発、癌の治療や生殖医療など広義の再生医療技術が日進月歩で開発されている。

本講演では眼科領域に限らず、再生医療全体の現在地と、今後起こりうる医療イノベーションについて分かりやすく解説する。

『黄斑疾患の治療アップデート』

富山大学 学術研究部医学系 眼科学講座 教授

林 篤志 先生

近年の網膜硝子体分野の進歩は著しく、OCTやOCTアンギオグラフィーなどの診断機器の進歩によるところも大きい。それらにより、詳細が不明であった眼底疾患、特に黄斑部疾患について詳細に画像化できることにより、その病態理解が深まっている。その上で病態に即した治療法の開発が行われている。現在、滲出型加齢黄斑変性などには、抗VEGF薬が第一選択の治療となっているが、新たな治療薬も出てきており、それらの効果について検証が必要であり、現時点での抗VEGF薬の使い方についてお話ししたい。

そして、手術治療では、低侵襲硝子体手術の進歩と病態理解により、手術適応も増え、手術成績が向上している。今後、硝子体手術にロボットによる補助を取り入れることでさらに進歩していくと思われる。それらの可能性についてお話ししたい。網膜中心動脈閉塞症は、未だ治療法のない予後不良の疾患であるが、新たな治療の可能性を探るため基礎研究を行っており、それについてもご紹介したい。